卒業論文

タイにおけるセクシュアル・マイノリティへの寛容性 ——性別役割分業との関連から——

2012 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース 社会学・地域福祉社会学専門分野

2017年1月 提出

本論文は、セクシュアリティりの多様性に着目し、社会生活における支配関係がセクシュアリティにおける支配関係に影響を与えることの示唆を土台に、タイと日本の比較を通して、「セクシュアル・マイノリティへの寛容度は、性別役割分業の程度に影響される」という仮説の提唱と、付随して支配関係の構図から現代の問題点に言及することを目的とする。はじめに、セクシュアリティの多様性をとりまく現状として、近年の海外と日本におけるセクシュアリティの多様性に関連する法整備や企業の参入などの動向を示し、セクシュアル・マイノリティに対する認知や理解の手段についておさえた。一方で十分な理解が促進されないことを原因に、セクシュアル・マイノリティが「差別の再生産」の対象になっている事実を指摘した。このような状況を踏まえ、性別役割分業の強弱も同様に、セクシュアル・マイノリティへの認知や理解に影響を与えることを議論の俎上に乗せるため、社会生活における支配関係とセクシュアリティにおける支配関係の関連性が見られる事例を挙げた。同時に、性別役割分業とセクシュアル・マイノリティの関連性についての先行研究を整理し、本論文では支配関係への影響を掘り下げるという立場に立つことを改めて明確にした。

次に、統計データではなく主に複数の事例を分析対象とすることへの留意点と方法を述べ、分析の焦点について、タイと日本における社会的規範意識の違い、セクシュアリティによる支配関係の可視化、セクシュアリティの差異がもたらす排他的領域の3点と定めた。 分析に用いるエスノグラフィの紹介及び選定理由もここでまとめている。

つづいて、複数の事例を用いることにより、タイと日本におけるセクシュアル・マイノリティへの対応と性別役割分業の違いを分析し、「タイ=性別役割分業弱い、セクシュアル・マイノリティへの寛容度高い」、「日本=性別役割分業強い、セクシュアル・マイノリティへの寛容度低い」という点を明らかにした。加えて、タイの性別役割分業が排他的ではなく包容的な実態であることの説明を試み、性別役割分業がもたらす支配関係が、今後セクシュアル・マイノリティに対して問題の「不可視化」を促進させる可能性を示唆した。

最後に、限られた事例を分析対象とすることの限界や客観性の不十分さを反省点として 挙げ、今後仮説の検証を一般化させるための課題を示した。そしてセクシュアリティの多 様性が性自認によって支えられるという筆者の意見を付し、本論文の結びにかえた。

目次

1	問題意	微 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
	1.1 性の	つ多様性をとりまく現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・1
	1.1.1	海外におけるセクシュアル・マイノリティへの認知や理解をめぐる動向
	1.1.2	日本におけるセクシュアル・マイノリティへの認知や理解をめぐる動向
	1.1.3	多様な性を既存の枠に当てはめることによる問題
	1.1.4	セクシュアル・マイノリティの定義
	1.2 性兒	川役割分業とセクシュアリティの関連性 ・・・・・・・・・・・5
	1.2.1	慰安婦問題
	1.2.2	女性生殖剥奪権
	1.2.3	インドにおけるカースト制とレイプ
	1.2.4	小括
	1.3 性別	川役割分業とセクシュアル・マイノリティに関する先行研究 ・・・・・・7
	1.3.1	マジョリティへの従属
	1.3.2	既存のカテゴリーからの脱却
	1.3.3	小括
2	本論文	こおける分析の方法論と分析の焦点 ・・・・・・・・・・・・10
	2.1 本語	倫文における方法論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
	2.2 分标	ff方法に関する議論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
	2.3 エン	スノグラフィの事例を用いた分析 ・・・・・・・・・・・・11
	2.3.1	分析に用いるエスノグラフィの紹介
	2.3.2	選定理由
	$2.3.3$ {	留意点
	2.4 分析	の焦点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
	$2.4.1$ \dagger	社会的規範意識
	2.4.2	セクシュアリティによる支配関係
	2.4.3	セクシュアリティの差異が生み出す排他的領域
3	タイと	日本におけるセクシュアル・マイノリティへの対応の比較 ・・・・・・16
	3.1 タイ	イにおけるセクシュアル・マイノリティに関する見解 ・・・・・・・16
	3.2 タイ	イにおけるセクシュアル・マイノリティへの対応 ・・・・・・・・17
	3.2.1	美意識の高い男性
	3.2.2	同性愛者団体

3.2.3 コンテスト	
3.2.4 ゲイ・トラベル指数	
3.2.5 「第3の性」	
3.2.6 ニュース記事の内容	
3.3 明らかになった点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 21
3.4 日本におけるセクシュアル・マイノリティへの対応 ・・・・・・・・	• • 22
3.4.1 LGBT 学生の声	
3.4.2 隠れるセクシュアル・マイノリティ	
3.4.3 女性より男性に強い抵抗感	
3.5 小括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 27
4 タイにおける性別役割分業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 28
4.1 実体験より ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 28
4.2 エスノグラフィから読み解く性別役割分業 ・・・・・・・・・・・	• • 29
4.2.1 「仕事」の捉え方	
4.2.1.1 雇用者の名誉	
4.2.1.2 工場労働での不満	
4.2.2 家の価値	
4.2.2.1 「家の化粧」	
4.2.2.2 女性の社会的地位	
4.2.3 家に実体化される規範システム	
4.2.4 「アパートの女」	
4.2.5 男性の立ち位置	
4.2.5.1 上座にいるべき存在としての男性	
4.2.5.2 男性によるセクシュアリティの支配	
4.2.5.3 男性の家事への不参加	
4.2.5.4 男性の義務	
4.3 小括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
5 日本における性別役割分業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 36
5.1 根強い分業意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
5.2 仕事に重きを置く男性像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 36
5.3 社会的地位の確保 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 38
5.4 小括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 39
3 性別役割分業のセクシュアリティへの影響 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 41

6.1	タイの性別役割分業	の特徴	• •	• •	•	• •	•	• •	•	•	•	•	• •	•	•	•	•	• 41
6.2	タイと日本の性別役	割分業の比	文較	•	•		•			•	•	•		•	•	•	•	• 43
6.3	理論面での補足				•		•			•	•	•		•	•	•	•	• 45
6.4	タイと日本の男性が	有する役割]		•		•			•	•	•		•	•	•	•	• 46
6.5	セクシュアル・マイ	ノリティ〜	の寛	容性	:	•	•		•	•	•	•		•	•	•	•	• 49
6.8	5.1 タイの寛容性が	持つ矛盾																
6.8	5.2 日本の「見えな	い」存在																
7 まと	<u>.</u>				•		•		•		•	•		•	•	•	•	• 51
7.1	分析の限界・・・				•		•			•	•	•		•	•	•	•	• 51
7.2	仮説の検証に関する	今後の課題	Ī		•		•		•	•	•	•		•	•	•	•	• 52
7.3	さらなる多様化へ				•		•			•	•	•		•	•	•	•	• 52
[注]					•		•		•		•	•		•	•	•	•	• 54
[文献]					•		•		•		•	•		•	•	•	•	• 56